

DESCENTE



デサントグループ
CSRレポート2014

はじめに

デサントグループは、社会との持続的な相乗発展を目指し、CSRに関する考え方や活動内容についてステークホルダーの皆様にお伝えし、ご理解いただくことを目的に「Webサイト」および本書「デサントグループCSRレポート」を作成しています。

「Webサイト」は、CSR活動の全般について網羅的に掲載し、検索性に配慮しました。「デサントグループCSRレポート」は、重要度が高いと判断した内容をISO26000を参照してご報告するとともに、より多くの皆様にお読みいただきたいテーマを特集ページ (P.6-10) として取り上げています。

ステークホルダーの皆様との対話をより深めるために、特集ページでは、当事者や参加者の「Voice (声)」を大切にして、楽しく読みやすい内容を目指して作成しました。

本書が、読者であるステークホルダーの皆様にとって、デサントグループが果たすCSRへのご関心・ご理解の一助となれば幸いです。

「デサントの考えるCSR」

私達の考えるCSRとは、変化する社会の要求に対して、事業を通じて果たすべき役割。

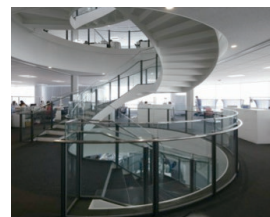
デサントグループ CSRレポート 2014

目次

■従業員とのかかわり	2
■お客様とのかかわり	4
■地域社会とのかかわり	6
特集 1. トレイルウォーカー・ジャパン	6
2. 東北元気アップ教室	8
デサントコリアの社会貢献活動	11
■コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	12
■サプライチェーンマネジメント	13
■環境保全への積極的な取り組み	14

報告の対象期間

原則として2013年4月から2014年3月までを対象期間としていますが、当該期間以前もしくは以後の活動内容も含まれています。



従業員とのかかわり

デサントは、倫理綱領にも定めたように、安全かつ衛生的な職場環境の構築に向けて、定められたルールの遵守を徹底し、労働災害の撲滅を目指し、健康管理を行い、豊かな発想と挑戦意欲を発揮できる企業風土を実現していきます。

デサントの求める人材像

チャレンジできる人

お客様起点を忘れずに、自ら高い目標を設定し、責任感を持ってやりきり、企業価値向上に貢献できる人。

チェンジできる人

時代や環境の変化に敏感で、常に改革・改善意識を持ち、失敗を恐れず、スピード感を持って仕組みを創造もしくは変えて組織を強くできる人。

コミュニケーションが図れる人

相手の考えや気持ちを理解し、尊重しながら自分の意思を分かりやすく伝えることができ、本質的な対話ができる人。

グローバルに活躍できる人

グローバルな視点を大切にし、言語・異文化等への関心・学習意欲を持ち、好奇心・行動力・向上心があり、国内外問わずどこでも能力発揮できる人。

人権の尊重

「デサント倫理綱領」の中において「出身地（学校）、性別、年齢、及び身体上のハンディキャップ等を理由として、嫌がらせや差別、ハラスメント等をしていない、させない」ことを定めています。

従業員への人権教育

デサントでは、全社員、派遣社員を対象とし、コンプライアンス研修の一環として年に1回、部署単位にて人権教育を実施しています。

人権に関する相談窓口

人権に関する相談窓口として倫理相談室を設置し、社内の職制を通じて解決できない問題の対処にあたっています。

ダイバーシティについて

競争力のある企業になるためには、全社員のレベルアップが必要不可欠です。性別、年齢を問わず、意欲を持って活躍できる人事制度、職場環境の構築、整備を推進していきます。

女性の登用

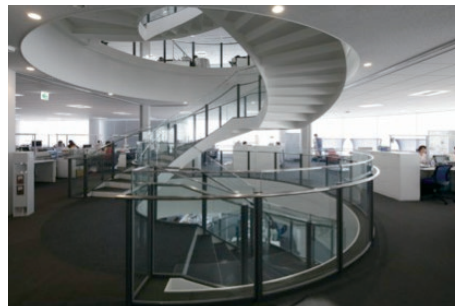
総合職・一般職を一本化するなど、性別によらず意欲・能力のある人材が適材適所で活躍できる制度の構築を目指します。

障がい者雇用の促進

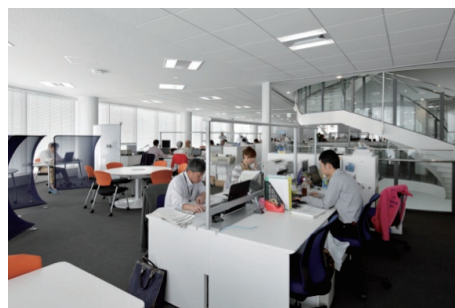
デサントでは、障がい者と健常者が分け隔てなく働ける職場環境づくりを目指しています。法定障がい者雇用率は、2013年度は1.7%に留まりました。法定雇用率を達成できるよう、引き続き働きやすい職場づくりに努めていきます。

シニア人材の活用

デサントでは、定年退職者に対する再雇用制度の充実を図るなど、シニア人材が貴重な戦力として働き続けられるようサポートを行っています。

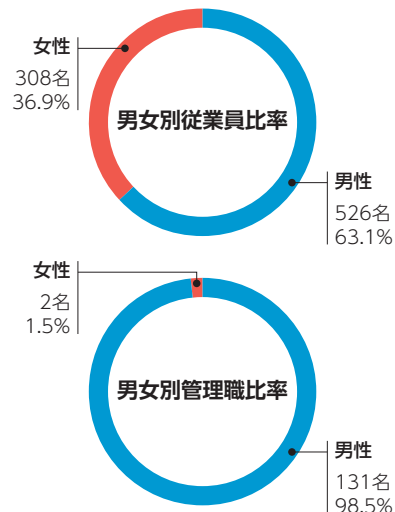


▲大阪オフィス
各フロアを繋ぐコミュニケーションボイド階段



従業員構成比率

(2014年3月末現在)



休暇制度、ワーク・ライフ・バランス

休暇制度

デサントでは、仕事と家庭の両立を図ることができるよう、育児・介護休暇などを整備し、支援しています。また、従業員が積極的に社会貢献活動に参加できるように、ボランティア休暇制度を設けています。

ワーク・ライフ・バランス向上のための取り組み

ノー残業デーの徹底や有給休暇取得促進などの施策により長時間労働の風土からの脱却を図っています。また「成果」重視への評価、価値観の醸成など社員の働き方の見直しも同時に行っています。

人材育成

デサントでは、会社の持続的な発展に必要な人材の育成を目的に、「視野を広げ、業務遂行能力、専門知識、思考能力を高める」ための教育・研修を実施しています。

教育・研修体系

従業員の年齢に合わせて、階層別・職能別にきめ細かな教育体系を編成しています。研修の内容により、対象者全員参加型・選抜型・公募型などさまざまな形式があります。

重点ポイント

デサントグループ中期経営計画「Compass 2015」の基本方針「5つのグローバル化の推進」のために、グローバルに活躍するための人材育成施策を重点ポイントとしています。具体的には、ビジネス英語とビジネススキルなどを身につけるための語学研修および語学学習支援、論理的思考を鍛えるためのマネジメントスクール研修などがあります。

労働安全衛生

デサントでは従業員の健康管理を最優先とし、法令遵守、及び就業判定基準の導入を図っています。厳格な就業判定・就業規制を実施すべく体制の整備、構築を目指します。

管理体制

労働安全衛生に関しては、安全衛生委員会が管理を実施しています。また、健康管理室の保健師による産業医と連携した社員の健康チェック、フォローを行っています。

メンタルヘルスへの取り組み

メンタルヘルス診断を2年に1度、全従業員に実施しています。

労使関係

会社と労働組合は、お互いに信頼、協力し民主的労使関係を維持し、企業の健全な発展と組合員の社会的、経済的地位の向上を図っていきます。

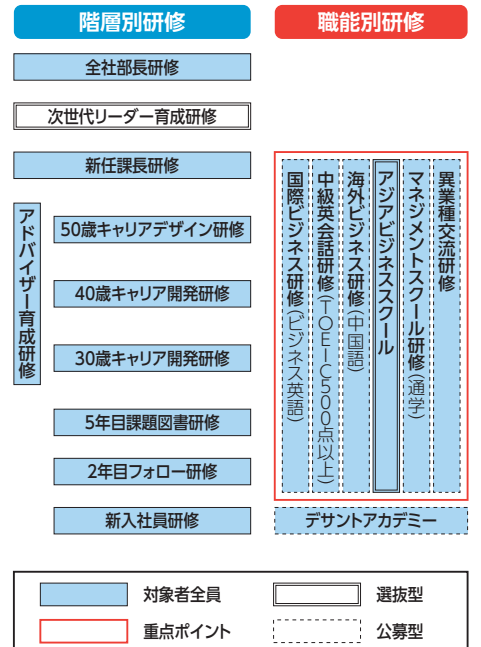
- 労使協議会・・・月1回開催
- 労使経営協議会・・・半期に1回開催
- 労使委員会・・・必要に応じ随時開催

各休暇の取得状況

(2014年3月末現在)

	2012年	2013年(名)
育児休暇	12	9
介護休暇	0	0
ボランティア休暇	5	9

教育研修体系図



▲労使経営協議会

お客様とのかかわり

デサントは、スポーツを愛する世界中のお客様をサポートするため、常に安全で高機能・高品質なスポーツウェアづくりに努めています。



フォーカス

原宿のフラッグシップ ショップにお客様を迎えて

『デサント』ブランドをグローバルに発信するフラッグシップショップ「DESCENTE SHOP TOKYO」が2013年10月、東京・原宿に誕生。国内で『デサント』ブランド初となる旗艦店で、世界中から訪れるお客様に同ブランドをもっと広く、深く知っていただく手段について、店長インタビューも交えてご説明します。

ウェアに込めた「モノづくりスピリット」を伝える

長い歴史を持つ『デサント』ブランドのウェアは、お客様に届くまで、多くの「モノづくりスピリット」で支えられています。私たちが大切にしているのは、使用するお客様にとって機能的、そして快適であること。企画・デザイン・縫製などの工程を経て、「モノづくり」への熱意が職人・スタッフの手から手へ引き継がれ、ひとつのウェアが完成します。これらの「モノづくりスピリット」を、お客様に手渡しでお伝えしたい、それが私たちデサントの願いです。



旗艦店が新たに果たす、3つの役割

異なるテーマに基づき、旗艦店を1F、2F、B1Fの3フロアから構成。

- 1F [MULTI TRAININGWEAR] :
『デサント』の幅広いラインナップから月ごとにテーマを設けて展開。
- 2F [INTERNATIONAL COLLECTION] :
『デサント』が積み重ねている「創造と挑戦」の最前線を発信。
- B1F [FOOTWEAR/PERFORMANCE GEAR] [BOOKS/EVENT SPACE] :
シューズやサポートグッズに加え、関連書籍の販売も。イベントスペースにも早変わり。

旗艦店は、単に商品を販売する「場所」ではありません。スポーツがもたらす感動や楽しさを広く伝える「メディア」になり、スポーツを愛するすべての人々を応援する「サポーター」になり、そして幅広い層の「コミュニケーションスペース」となる店舗を目指します。



「DESCENTE SHOP TOKYO (デサント ショップ 東京)」

オープン日 : 2013年10月10日
住所 : 東京都渋谷区神宮前1-14-33
TEL : 03-6804-6332
営業時間 : 11:00~20:30
定休日 : 年中無休
面積 : 約100坪 (事務所スペース含む)
店長 : 土井 梢



お客様と向き合い「モノづくりスピリット」を進化させる

インタビュー

『デサント』ブランド初の旗艦店で店長を務める土井 梢 (どい こずえ) にお客様との接し方を訊きます。



▲店長 土井 梢 (どい こずえ)

Q1 旗艦店の特長は何ですか？

旗艦店では、グローバル展開というステップを踏み出した『デサント』ブランドを牽引する商品として、「水沢ダウン」「オルテライン」「イノヴェイト×デサント」などを重点的に取り扱っています。B1・1F・2Fのフロアごとに担当スタッフを配していますが、お客様のフロア間の移動も想定して、9名のスタッフ同士が密接なコミュニケーションを取り合い、店内すべての商品知識・関連情報を把握するように努めています。

Q2 「デサントの接客」をどのように捉えますか？

毎日の接客で心がけているのは、『デサント』ブランドの強みである「モノづくりスピリット」をしっかり伝えられるよう、スポーツウェア・シューズの素材や高い機能性だけでなく、正しい取り扱い方もお客様にきちんと説明することです。原宿というロケーションをふまえ、中国語・英語を話せるスタッフも配置し、「モノづくりスピリット」を海外からのお客様へ伝えられるのも強みと言えると思います。

Q3 旗艦店全体としての目標はありますか？

オープン前に、スタッフ全員で「顧客満足度ナンバーワン店舗」を目標に掲げています。顧客満足度の向上と、それを実現する「おもてなし」への取り組みが、旗

艦店そしてデサントグループのさらなる発展に必要なだと考えます。

お客様と直に接する私たちは、「お客様起点・店頭起点」という発想で、お客様のご意見をとても大切に扱うようにしています。いただいた様々なご意見を、製品の開発部門に伝えて、「モノづくりスピリット」の進化に役立てています。

今後も、顧客満足度の向上を目指した接客に努めていきます。



品質安全

デサントの製品は、優れたデザイン・品位・機能と共に、お客様が要求する安全性・品質・性能を兼ね備えた状態で、お客様にお届けしたいと考えています。そのために生産に関わる担当者が各種の品質基準を厳格に運用して、生産工程に反映できる体制を整えています。これらの基準は、お客様のご要望に応えられるように、当社独自の試験方法を作り込むなど、常に正しい状態に保つように見直しています。これがスポーツ用品メーカーの使命であると考えています。

品質保証体制

デサントは16のブランドを保有し展開しています。それぞれの企画担当者が同じ条件で品質基準を運用できるように、品質基準の作成および管理を行う品質管理課に、各ブランド内の品質基準運用者を集中して配置しました。これにより品質管理を社内で横断的に実施できるほか、品質面における事故の発生を速やかに全社で共有することが可能です。また、品質基準を常にお客様の要望を満たすレベルに保つために、お客様相談室に入ってくる製品へのご意見を解析し、製品づくりに反映させています。

顧客満足

デサントでは、お客様のニーズをできるかぎり先取りして、常に商品の開発やサービスの追求を行うことを行動基準としています。

お客様の声を商品に活かす

お客様（ユーザー）からの声は常に商品に反映させています。デサントでは、お客様相談室を東京・大阪オフィスにそれぞれ設置して、日々お客様からのご意見・要望を聞き取っています。このお客様相談室に入ったご意見・ご要望や、デサント製品を使用している選手などからの要望・情報は、すばやく社内に関連部署にフィードバックして、スポーツのシーンにおいて常に使いやすい、より良い商品の提供に努めています。

顧客満足度向上のために

正しい商品情報の習得と接客術を磨くために、店頭販売員（セールスコーディネーター：SC）の日頃の接客の成果を発表する場として、2009年より「全国SCロールプレイング大会」を開催し、さらなるスキルアップと顧客満足度の向上を目指しています。

個人情報管理

「デサント行動基準」では、情報の収集に関して、お客様の住所や氏名などの個人情報については厳重に管理し、お客様にご迷惑をかけることがないよう最善の注意を払う必要があると謳っています。お客様の個人情報が必要なときは、必ずお客様に使用目的をお伝えし、了解を得た上で収集し、目的外の使用をしないように、またご本人の同意なしに他社・他人に提供してはけない、としています。

特集
1

NPO法人による世界的なウォーキングイベント オックスファム・トレイルウォーカー・ジャパンに協賛

ウォーキングで「2つの挑戦」の完遂を目指す

私たちは、2013年5月10～12日に開催された、特定非営利活動法人オックスファム・ジャパンが運営するイベント「オックスファム・トレイルウォーカー・ジャパン 2013」に協賛しました。

「オックスファム・トレイルウォーカー」は、100kmのコースを4人1組のチームで歩いて48時間以内のゴールを目指す、世界的なウォーキング・イベントです。自分の体力がどこまで続くかに加えて、参加者自身が寄付金を集めて(ファンレイジング)国際協力に貢献するという、2つの挑戦が用意され、これまでにオーストラリア・ニュージーランド・イギリス・香港などで開催されました。日本では2007年から毎年開かれ、第6回目となる2012年には148チームが参加し、約3,000万円もの寄付金が集まりました。私たちは、日本で初開催となった2007年より協賛を継続しています。



貧困を克服する途上国の人々を寄付金で支援

参加チームは1チームにつき12万円以上を募金し、集まった寄付金は、国際協力団体オックスファムの実施する、途上国の紛争・災害時の緊急人道支援、教育・農業支援などの国際協力活動に使われ、人々が貧困から立ち上がるために役立てられています。

私たちは本イベントの趣旨に賛同し、今回の大会への協賛として、スタッフおよびボランティア用Tシャツの提供やゼッケンの制作を無償で(素材は住友3Mより無償提供)行ったほか、ウォーキングの普及・振興への寄与を図りました。

チームワークの大切さを再確認

今回、当社からはチャレンジャー4名、サポーター6名の計10名が全員、スポーツボランティア休暇を取得して参加しました。過酷なコースに加えて、大会当日は悪天候により非常に厳しい状況でしたが、無事に46時間29分で完歩できました。参加者からは、極限状態でサポートしてくれた仲間の大切さを実感したり、募金に協力してくれた方々への感謝の声などが寄せられています。

私たちは今後も、国際協力のためのスポーツイベントにサポートを継続していきます。

Challenger



001

東京オフィス：
ゴルフ販売部
販売3課
藤澤 桂子

「スポーツを通じた社会貢献で生まれた、感謝の気持ちを忘れません」

100kmという未知の距離にチャレンジしたい気持ちと、素晴らしい仲間たちとの思い出をつくりたい思いで参加を決意しました。私たちが大好きなスポーツを通じて、社会貢献できることを嬉しく思います。この経験を踏まえ、どんなときでも感謝の気持ちを忘れずに行動していきます。

Supporter



002

左：東京オフィス：スポーツチェーン2部販売1課 國澤 舞
中：同 SP部WEB推進課 林 篤弘
右：同 百貨店部販売2課 林 裕紀

「10人全員がそろったチームの大切さを実感しました」

何が起るかわからない状況の中で、チームの大切さや、日常にはない達成感を得ることができ、非常にいい経験になりました。チャレンジャーとサポーターが全員そろってひとつのチームができあがっている雰囲気は常にあり、先輩・同期との仲がさらに深まったように感じています。



オックスファム・トレイルウォーカー・ジャパン2013の概要



- 主催:** 特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン
- 内容:** 100kmのコースを4人1チームで48時間以内に共にゴールを目指す
- 目的:**
- 自分の体力への挑戦
 - 参加者自身が寄付金を集めて(ファンレイジング)、国際協力に貢献するというもう一つの挑戦
 - 国立公園、国有林、林道などを歩くことにより自然と親しむとともに環境保全のマインドを植え付ける
 - ウォーキングの普及振興に寄与する
 - かけがえのない経験から得られる達成感・一体感を仲間と共有する

開催日時: 2013年5月10日(金)～12日(日)

コース: 神奈川県小田原市から山梨県山中湖村までの100km

参加者: 250チーム(1,000名)

当社の協賛内容

- スタッフ用・ボランティア用Tシャツの無償提供
- ゼッケンの制作
*ゼッケンの素材になるスコッチライト(再帰反射素材)は住友3M社より協賛
- 2013年3月13・14日開催の参加者説明会の会場として椿ホールの無償貸与

Organizer



003

特定非営利活動法人
オックスファム・ジャパン
事務局長 米良 彰子氏

「公正な社会づくりのため、継続的なご支援に期待します」

本大会は一過性のイベント、または一部の社員の方が参加するものではなく、全社を挙げて積極的に参加くださっている(株)デサントのご支援・協賛に対し、心より感謝を申し上げます。ご提供のオックスファム・トレイルウォーカー・ジャパンTシャツは、参加者・ボランティアの皆さまに毎年ご好評をいただいております。Tシャツを楽しみにして参加される方も少なくありません。私たちスタッフも普段から大切に着用しています。貧困のない公正な社会づくりに向けて、引き続き(株)デサントの変わらぬご支援をお願い致します。

Our Products

今回の「オックスファム・トレイルウォーカー・ジャパン2013」では、デサントのチャレンジャーたちが、『イノヴェイト(inov-8)×デサント』のランニングシューズと『スキんズ』のコンプレッションウェアを着用して参加しました。

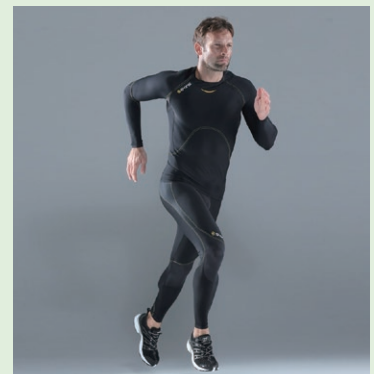
『イノヴェイト×デサント』

英国の『イノヴェイト』と『デサント』のダブルブランドで、2013年春より展開をスタートした『イノヴェイト×デサント』のランニングシューズは、「ナチュラルランニング=裸足の感覚で走る」がコンセプトです。着用モデル(ROCLITE275GTX)はGORE-TEX®を使用しているオフロードランニング用シューズとしては軽量(片足275g)で、つま先とかかとの間の高低差「ショック・ゾーン」が9mmある入門モデル。ソールはロングトレイル用に開発され、グリップ性があり、トレッキングにも適しています。



『スキんズ』

オーストラリア生まれの『スキんズ』は、独自の段階的着圧を特徴とし、パフォーマンスとリカバリーの機能が選べるコンプレッションウェアのブランドです。



特集
2

「体を動かす楽しさ」を被災者の方々と分かち合う 健康増進支援「東北元気アップ教室2013」を開催



2013福島元気アップ教室会場

2012年から継続して開催

デサントでは東日本大震災の被災者への支援活動として、「東北元気アップ教室2013」を2013年5月25～26日および6月22～23日の4日間、福島県双葉郡の楢葉町と広野町で開催しました。これは、被災者の方々に「体を動かす楽しさ」を提供する目的で、2012年9～10月に宮城県石巻市・名取市で開催した「東北元気アップ教室2012」に続くものです。デサントヘルスマネジメント研究所が主催し、両自治体および地元の「みんぷく」(3.11被災者を支援するいわき連絡協議会)の協力を得て実施した「健康増進教室」には、合計120名の住民の方々に参加いただきました。

多彩なプログラムで楽しく運動

長期化する避難生活でストレスを感じている被災者の方々に、体を動かして生き生きとした生活を送ってもらい健康の維持・向上を図るため、4日間にわたり多彩なプログラムを実施しました。

体の動きやバランスを測定する「カラダバランス測定」と、歩行状態を計測して正しい歩き方をアドバイスする「セーフティウォーク・ナビ測定」は、共にデサントヘルスマネジメント研究所の開発によるシステムを使用したメニューで、3次元センサを装着して簡単・正確に体の歪みや無理な歩き方がわかるため、非常に好評でした。

「笑う体操」では、講師の己抄呼(みさこ)さんを囲んで笑顔の大切さを実感できる健康体操を全員で楽しみ、栄養セミナー「元気まるごと!いきいき食事講座」では、一日に摂る食事の栄養バランスに関する指導を行いました。このほか、「筋肉トレーニング&ストレッチ」「歩行寿命を延ばすウォーキング」など、いつでも簡単に行える健康増進プログラムも実施しました。

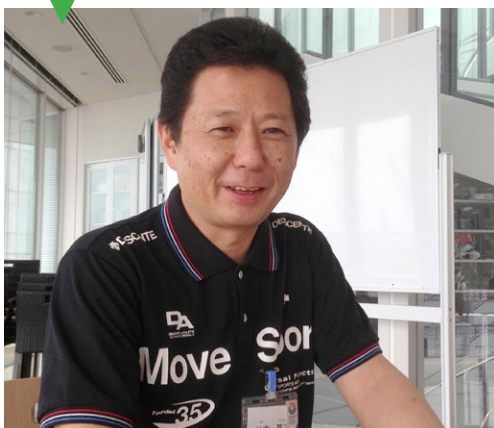
【場所・日程】

- 福島県いわき市：楢葉町サポートセンター
“空の家”(福島県いわき市内仮設集会場)：5月25日、6月22日
- 福島県双葉郡広野町：広野町保健センター：5月26日、6月23日

【参加者】

- 楢葉町：1日目：32名(男性6名・女性26名)、2日目：37名(男性8名・女性29名)
- 広野町：1日目：28名(男性3名・女性25名)、2日目：23名(男性3名・女性20名)

Organizer



004 デサントヘルスマネジメント研究所
所長 八木 基之

「スポーツを通じて、元気で活力ある地域づくりを応援していきます」

NPO法人エッジのご紹介により、地元福島の復興センター・NPOと協議し、開催が決定しました。開催が実現したのは、「被災地に出向き、被災者の方々と直に接して、健康増進に貢献する」という主旨がご理解いただけたからだと思います。参加者からは「震災から2年が過ぎ、日々、生きることで精一杯だったが、少しは自分の体を気遣うことができるようになった。その機会をいただいたことに感謝している」「地域の仲間とふれあう機会ができて嬉しい」などの反響がありました。また、スタッフも全員「被災者の方々とふれあうことで、逆に元気をもらった」と言っています。今は小さな活動ですが、支援を継続させ、将来的には現地のNPO主催でも運営できるノウハウを提供して、新たな雇用の創出も視野に入れています。

「東北元気アップ教室2013」の主なメニュー



栄養セミナー「元気まるごと!いきいき食事講座」



己抄呼(みさこ)先生による「笑う体操」



「筋肉トレーニング&ストレッチング」



歩行状態を計測して正しい歩き方をアドバイスする「セーフティウォーク・ナビ測定」

Participant



005

参加者
 広野町 保健センター
 主任主査 佐藤 尚文氏

「楽しく運動できたので、
 次の開催も期待しています」

震災後、運動不足もありメタボ気味となったため、この機会に体づくりの勉強をしようと思い、参加を決めました。講師の方々のお話が笑いを交えたもので、最後まで飽きずに、とても楽しく運動でき、参加して正解でした。あまり運動用品に興味がないのでデサントさんのことは知りませんでしたが、今度からは注意して見るようにします。参加者の多くが楽しく運動できたと思いますので、また次を期待しています。

Voice

教室に参加頂いた方の声 (抜粋)

- 皆さんで体を動かすことができ、一緒に笑えた。
- いろいろな場に参加してきましたが、こんなに楽しく笑いのある研修はありませんでした。
- 体に良いことを無理せず長く続けていきたい。
- 運動をし、笑いながらバランスの良い食事を取りたいと思います。
- 一緒に参加した友人などを思い出しながら実践したい。
- ストレッチ・ウォーキングで自分をいたわりながら、大事な人もいたわる。
- いつの間にか心と体がほぐれていた。
- 参加してよかった。日頃運動はしているが、それが正しい方法なのかという疑問が解決したように思います。
- 心身ともにすっきりした。友達に逢えてよかった。
- 皆さんと気持ちよく運動できたことがうれしい。

Supporters

006



みんなが復興の主役!みんなが
3.11被災者を支援するいわき連絡協議会
理事・事務局長 赤池 孝行 氏

「デサントという企業の特長を 活かした運動支援が魅力です」

以前より運動をベースにした高齢者の健康支援を考えていたところに、デサントさんからの提案があり、現場の要望に合致し、継続的な支援が見込めるので開催することになりました。企業の特長を活かした運動支援が魅力であり、以前より健康支援活動の要望があった自治体の保健師の方々とも連携し、スムーズに進行できました。今後も自治体と受入側コミュニティが協調した良い事例として拡張していったらいいと思います。

広野町保健センター
所長 渡邊 龍子 氏

「健康面での継続的なご支援をお願いします」

震災以来、デサントさんをはじめ多くの企業や全国の方々から、物心両面にわたる多くのご支援をいただき、今日に至りました。住民の方々もハード面ではほぼ要望を満たされながらも、精神・体力など健康面では日を追うごとにパワーが低下しています。住民の方々が、元気に町に戻って従前の生活ができるよう私たちが努力していきますが、デサントさんをはじめとする関係者の皆さんにも、変わらぬご支援をいただければ幸いに存じます。



007

楡葉町 いわき出張所
保健師 橋本 光子 氏
(公益社団法人福島県看護協会)

「“楽しむ運動”を積極的に アピールしていきます」

メニューもカラフルでスタッフも多く、「楽しかった」という声が多く聞かれました。今までは女性が多かったのですが男性の参加者も増え、男性を取り入れるプログラムとしても期待が持てます。震災の体験談はたくさん語れますが、このような楽しいスポーツイベントは、なかなか経験できません。もっと運動を楽しんでいい、ということを積極的にアピールして、開催の機会を増やしていきたいと思っています。



008

「東北元気アップ教室 2013」秋季実施実績

場所・日程: 福島県いわき市:富岡町高齢者等サポートセンター「笑顔」:
9月28日、10月12日

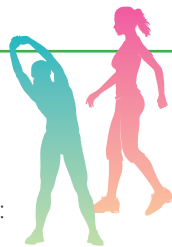
参加者: 1回目:17名(男性4名、女性13名) / 2回目:21名(男性5名、女性16名)

場所・日程: 福島県郡山市:富岡町福祉協議会「おだがいさまセンター」:
9月29日、10月13日

参加者: 1回目:27名(男性7名、女性20名) / 2回目:32名(男性8名、女性24名)

対象: 富岡町(一部、川内村、双葉町含む)住民の方で、郡山市といわき市に
避難されている方を対象として実施

※一般社団法人 ふくしま連携復興センター、富岡町生活復興支援センター『おだがいさまセンター』、みんなが復興の主役!みんなが 3.11被災者を支援するいわき連絡協議会と連携しながら進めました。

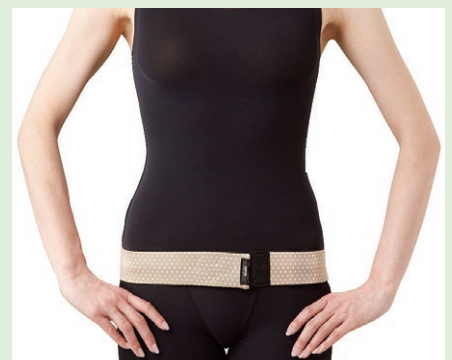


Our Products

今回、福島県双葉郡の楡葉町・広野町で開催された「東北元気アップ教室2013」では、各会場で2日間の教室に参加された方々に『shiseist』骨盤ベルトを、参加賞として最終日にお渡ししました。

シセイスト 『shiseist』骨盤ベルト

トップアスリートをサポートするスポーツトレーナーの鴻江寿治(こうのえ ひさお)氏が考案した『shiseist』骨盤ベルトは、人体の要である骨盤をサポートして正しい姿勢を保持し、本来のパフォーマンスを引き出します。「東北元気アップ教室2013」に参加された方々が、同教室のメニューで習った「筋肉トレーニング&ストレッチ」「セーフティウォーク・ナビ測定」「笑う体操」などを正しい姿勢で行えるよう、骨盤ベルトの装着方法や特長などをご説明しました。



shiseist

デサント코리아株式会社の社会貢献活動



国連環境計画機関(United Nations Environment Programme: UNEP) 韓国委員会とのパートナーシップで、地球温暖化で生息地が減少している南極のペンギン保護に向けたキャンペーン「SAVE THE PENGUINS」を2009年から展開中です。

キャンペーンTシャツを販売した利益の一部をUNEPに寄付するなど、生息地の保護に貢献しています。

収益金の10%を
UNEPへ寄付実績
2012年度: 7,000万ウォン
2013年度: 1億ウォン

「SAVE THE PENGUINS」 キャンペーン概要

主催

DESCENTE KOREA(デサントグループ)

実施期間

2013年3月29日～6月30日

目的

地球温暖化によるペンギンの
生息地の保護



▲キャンペーンポスター



▲キャンペーンTシャツ

デサントスポーツ財団 (DESCENTE SPORTS FOUNDATION) を設立し、 韓国のスポーツ振興に貢献



▲2013年3月13日、ソウル市教育庁との間で「Move Sport」プログラムの協約を結んだ、デサント코리아株式会社 代表取締役社長の金 勳道(キム フンド、左)

デサント코리아では、2013年より「デサントスポーツ財団」を設立・運営し、スポーツを通じた社会貢献に注力しています。新たな取り組みとしてスタートした「Move Sport」プログラムは、中学生が積極的に体育に参加することで、健康を増進させるのが目的です。従来の体育の授業は、技術面の過度な重視による競争や、運動能力の不足により体育への興味を失う学生の増加という課題を抱えていました。

このため、授業を活性化させ、中学生たちが楽しめる身体活動プログラムである「Move Sport」を提案。ソウル市内から選ばれた50校で同プログラムを推進し、教師の方々の研修やウェア類の支給、広報活動の実施など、各方面での支援を行っています。

今後も「Move Sport」の継続により、学校教育の現場における体育の新たな価値を創出し、韓国でのスポーツ振興に貢献していきます。

「Move Sport」プログラムの推進用に支援した主な物品



▲2013年11月の「ソウル女子学生スポーツフェスティバル」のキングボール種目で、3位に入賞したソウン中学校



①学生用ベスト



②キングボール



③教師用の半袖・長袖Tシャツ

サプライチェーンマネジメント

デサントは、サプライヤーの皆様と公正なパートナーシップを築き、人権や労働条件の改善、環境保全に協力し、共に発展していきたいと考えます。そのために、すべての仕入先と「デサント・サプライヤーCoC(取引行動規範)」の誓約を交わし、工場のCSR監査を実施しています。

2013年度 第三者機関によるCSR監査結果

2013年度は19工場に対しCSR監査を実施しました。指摘された項目に関して仕入先および工場と話し合い、是正計画を練って改善に取り組んでいます。

※ライセンス契約においてライセンサーが監査を行った工場を除く

●2013年度実施工場(19工場)について

監査実施期間 : 2013年6月13日~同年12月26日
 国別工場数 : 中国 7/ベトナム 4/インドネシア 1/
 ミャンマー 5/タイ 2

●2010~2013年労働監査実施の国別工場数

中国 39/ベトナム 11/インドネシア 2/ミャンマー 5/タイ 2

監査項目

1.児童及び未成年労働、2.強制労働、3.安全衛生、4.結社の自由、5.差別、6.懲戒慣行、7.労働時間、8.賃金、9.環境

生産アイテム	監査実施工場数	不適合が全項目の10%未満	不適合が全項目の10~19%	不適合が全項目の20%以上
ウェア	11	4	3	4
シューズ	4	1	1	2
アクセサリ	4	3	1	0
計	19	8	5	6

労働監査実施の工場数推移と結果累計

生産アイテム	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	不適合が全項目の10%未満	不適合が全項目の10~19%	不適合が全項目の20%以上
ウェア	2	11	19	11	23	12	8
シューズ	0	1	2	4	2	2	3
アクセサリ	0	0	5	4	6	3	0
計	2	12	26	19	31	17	11



▲ベトナムの縫製工場において、製品の仕上げから梱包作業までを第三者機関が監査

▶デサントサプライヤーCoC

<http://www.descente.co.jp/company/csr/post0143.html>

当社の行動規範について、世界スポーツ用品工業連盟(WFSGI)の行動規範に基づき次の内容で定めました。

1. 法律の遵守

2. 労働条件

- ①強制労働
- ②差別
- ③組織及び団体交渉の自由
- ④賃金
- ⑤労働時間
- ⑥権利と休暇
- ⑦児童労働
- ⑧健康と安全
- ⑨嫌がらせあるいは虐待

3. 環境

4. 地域社会との係わり合い

5. 企業内の独自の規範

6. 証明

7. 遵守



環境への積極的な取り組み

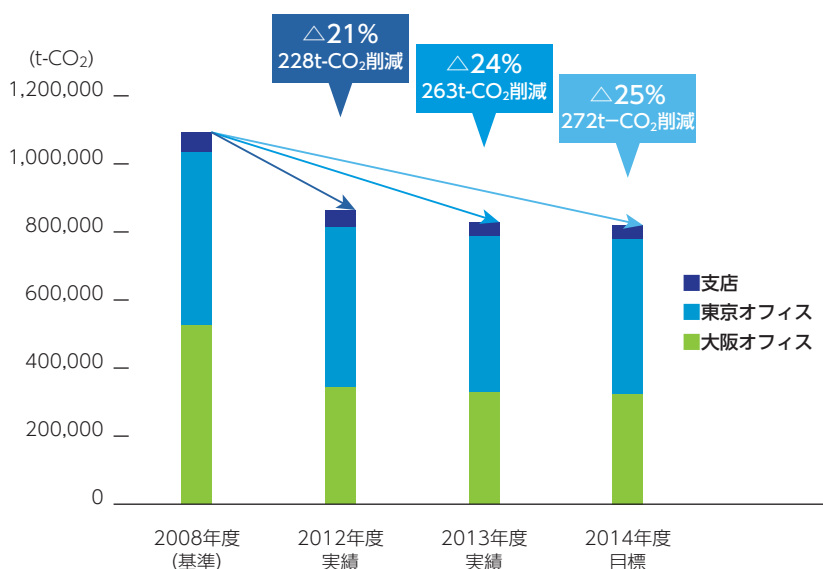
デサントは、環境経営の指針として「デサント環境基本理念」「デサント環境方針」を定め、取締役を中心に構成される「環境委員会」を設置しています。環境委員会のもとには環境保全活動を推進するためにISO14001分科会とチャレンジ25分科会を置き、環境負荷・環境リスクを低減するとともに、それらの発生を予防するための行動を積極的・継続的に行っています。

CO₂の排出

デサントは、2013年度のCO₂排出量の削減目標を達成しました。基準年度である2008年度の1,092t-CO₂に対して263 t-CO₂を削減し、削減率は24%になりました。

2014年度の目標は、基準年度比で25%削減を掲げています。

CO₂排出量の推移



▶「デサント環境基本理念」「デサント環境方針」はこちら
<http://www.descente.co.jp/company/csr/post0142.html>

▶「環境委員会」「ISO14001分科会」「チャレンジ25分科会」はこちら
<http://www.descente.co.jp/company/csr/topics/extended/environmental-protection/>

内訳

国内事業所	削減量
電気	△2.4
ガス	△8.3
水道	0.4
ゴミ	△1.0
計	△11.3

単位:t-CO₂

環境保全取り組み事例

■デサントアパレル株式会社 西都工場に太陽光発電システムを導入

宮崎県西都市に位置する西都工場の敷地内に、全幅・全長が8×40mに及び総数200枚の太陽光パネルを設置し、2014年3月より発電を開始しました。発電量は年間およそ58,000kWh (予測値) で、約20トンのCO₂を削減します。

発電した電力は、経済産業省による「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を活用して九州電力株式会社へ売電を行っています。



▲西都工場の敷地内に設置された太陽光パネル

■廃棄した繊維を、植物栽培用の軽量土壌に再生

デサントアパレル株式会社の各工場から出る裁断端切れや廃棄の生地をリサイクルし、植物栽培用の軽量土壌に再生する取り組みに参加しています。この土壌は国内のベンチャー企業が開発したもので、(1)適度な保水・排水性がある、(2)半永久的に使用でき交換は不要、(3)軽量で手を汚さず取り扱いやすい、などが主な特長です。

生地は綿状に加工し補充材料を含有させた後、園芸用品や天然芝の栽培マットとして商品化されます。



▲当社工場の裁断ハギレを再生した軽量土壌のプランター

DESCENTE



コーポレートシンボルマークの由来

DESCENTEとは、フランス語で「滑降」の意味。

スピリットマークは、スキーの基本技術である直滑降、斜滑降、横滑りを表現しています。

つねに最もすぐれたものに目を向け、時代の要求を先取りし、積極的に製品化していく果敢なデサントスピリットのシンボルです。

本レポートに関するお問い合わせ

株式会社デサント CSR推進室

TEL:06-6774-0327/FAX:06-6774-2605

当社CSRサイト

<http://www.descente.co.jp/company/csr/>